



## 『石鳥居』をたずねて

—江戸時代の石鳥居に刻まれた歴史を探る—

神社の入口には、必ず石鳥居が立っていると言っても言い過ぎではない。『広辞苑』には鳥居は神社の参道入口に立てて神域を示す一種の門とあるが、その起源については日本始源説の外、インド・中国・朝鮮より伝わったとする説もあり、語源も「鳥が止まり居る」とか「人が通り入る」とかの説があって定説はないようである。また鳥居には、その多くに奉納した村の名や氏子中の文字の外、寄進をした個人、建立に携わった人々、鳥居を刻んだ石工や建立した年月日が記されているのが普通である。更に藩主の寄進した鳥居のように、長文の祈願文が記されているものもある。

年号のうち江戸時代のものに限ると、姫路市内では60基余りの石鳥居を見ることができる。（別掲表）これらの年号を頼りに神社を訪ね、石鳥居やその他の石造品に刻まれた銘文から色々な歴史をさぐってみよう。

## 1 藩主寄進の石鳥居

① 射楯兵主神社（総社）—南参道— 総社本町  
慶安5年(1652)姫路藩主となった榊原忠次が寄進したもの。左柱に「当社が当城鎮守故、今彫刻巨石撰州御影山運自海上以建之……祈家運之無窮也」と記されている。明神系鳥居で規模も雄大であり江戸初期の代表作（県指定文化財）



射楯兵主神社(1-①)



男山・八幡神社(1-②)

② 男山・八幡神社 —道路際— 山野井町  
延宝7年(1679)藩主松平直矩が寄進したもの。「播州飾東郡雄徳山八幡宮、姫路城従四位下侍従兼大和守源朝臣松平直矩」の文字が刻まれている。



八代・大歳神社(1-③)



男山・八幡神社(1-④)

③ 八代・大歳神社 八代宮前町  
延宝8年(1680)上記と同じく直矩の寄進したもの。この神社はもと南八代村にあったものを元禄8年(1692)に今の所へ移転した。この石鳥居も南八代の刻銘があり、当初は南八代の社前に寄進されたもの。境内にはもう1基、江戸期の享和2年(1802)銘のある石鳥居がある。

④ 男山・八幡神社 —社殿前— 山野井町  
正徳6年(1716)藩主榊原政邦の寄進によるもので、『播州雄徳山八幡宮略記』には正徳5年四十二御賀に当社を造営とあり、同6年に成就している。石鳥居もこの時建立されたもので、神を敬い武運長久と家門の繁栄を願って、銘文や詩が刻まれている。

		(正) 右柱	(正) 左柱	(正) 右柱
		播州飾磨郡雄徳山	八幡宮	八幡宮
				八幡宮境地俯険而隘狭宮社経年而傾敗
				今茲考時度方卜地奠位転石夷險運材營宮親書扁額
				新建華表奉崇
				神徳之靈威以仰武運之久長期門楣之繁榮云
				巍然雄徳 山抽姫陽 宮殿清肅
				榮祝輝煌 華表屹立 松柏鬱蒼
				龟蟠鶴舞 風翥龍驤 神威如在
				佳氣呈祥 門闕盛大 遐寿無疆
				正徳六年丙申三月十五日
				従四位下侍従兼式部大輔源朝臣政邦

## 2 藩士の寄進した石鳥居

### 若宮神社 花田町上原田

幕末の安政3年(1856)の年号が刻まれている。左右の柱には世話人の名前と御草履取4名、御駕籠8名、御手先廻り9名、御跡手廻り6名の名前がある。石工久右衛門の名もある。もと別の神社に奉献されていたものであろうか。明治初年に姫路藩の藩士から譲り受けたと伝えられている。



若宮神社(2)

## 3 御国産江戸積仲間寄進した石鳥居

### 九所御霊天神社 大善町

姫路木綿の取扱い業者の寄進したもので、まわりの玉垣にも木綿関連の城下の有力商人等の名等が刻まれている。石鳥居には「播磨市別府九所御霊天神」とあり、この土地は飾磨市に關係する別納徴符の土地であることを示すと考えられる。世話人5名の名もあり、鳥居・玉垣共に貴重な藩政史料の記録と言えよう。



九所御霊天神社(3)

## 4 講中・惣中の寄進による石鳥居

### ① 天満神社 飾磨区恵美酒

天和3年(1683)のもの、願主講中とある。残欠として保存。

### ② 歳徳神社 材木町

元禄16年(1703)の年号と奉寄進惣中とある。残欠として保存。



印鐸神社(5-①)



歳徳神社(4-②)

## 5 寄進者・施主・願主・世話人の個人名を記した石鳥居

### ① 印鐸神社 四郷町山脇

安永元年(1772)願主大坂生田平兵衛。

### ② 大年神社 飾西

年号は貫の下面に文化10年(1813)とある。世話人は大坂の坂本屋喜久松、地元の8名の名前が記されている。

### ③ 三森神社 豊富町御蔭

文政6年(1823)のもの。寄進者と思われる名と清水村大工桂繁右衛門安繁の名と世話人2名の名がある。

### ④ 歓喜天 勝原区朝日谷

文政13年(1830)のもの。施主は在所の治部宇祐と龍野の堂本屋乙九郎、世話人は龍野の□物屋吉兵衛とある。

### ⑤ 麻生八幡神社 奥山

弘化3年(1846)施主は継村の貴船川勘蔵

### ⑥ 住吉神社 的形町磯

嘉永3年(1850)当村中村氏



歓喜天(5-④)



大年神社(5-②)



天満神社(5-⑦)



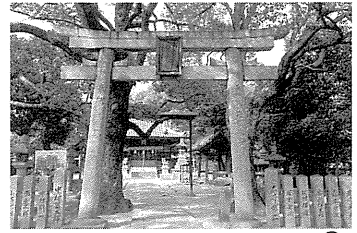
麻生八幡神社(5-⑤)

### ⑦ 天満神社 広畑区才

安政6年(1859)願主摂州灘上芦屋村井床利平次、世話人2名の名がある。境内には立派な力石が保存されている。

### ⑧ 大歳神社 野里

慶応3年(1867)天下恭平、国家安寧を祈願して奉献。願主は大野町芥田源宗安代、世話方は5名の名前が刻まれている。



大歳神社(5-⑧)

## 6 寺院の境内にある石鳥居

神仏混淆のなごりを今日に伝えるものといえる。神社を祀りその社前に立つ鳥居である。

### ① 書写山圓教寺・奥の院護法堂 書写山

護法堂は性空上人の侍童として知られる乙天(本地不動尊)と若天(本地毘沙門天)を祀る書写山の鎮守社である。その社殿前に寛文3年(1663)の年号を刻んだ鳥居がそれぞれに立っている。



圓教寺奥の院護法堂(6-①)

### ② 愛宕大権現社 山野井町

明治3年に総社境内から移ってきた不動院の奥(本堂裏)にある。ここにはもと愛宕神社の別当であった長徳寺が併存していたが、現在長徳寺は廃寺となっている。神社は男山の中腹にあり、登り口に享保6年(1721)の石鳥居がある。



愛宕大権現社(6-②)

### ③ 法華寺境内北辰妙見宮 五軒邸一丁目

最近まで境内の妙見宮前にあったが、本堂改築の際に撤去された。石柱に北辰妙見宮前、願主緒方、施主北辰講中、等が刻まれ、もう一方の柱に、享和元年(1801)法華寺十八世日英代と記されていた。



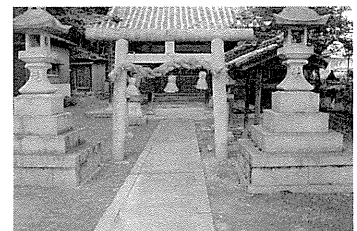
道林寺境内(6-④)

### ④ 道林寺境内 林田町六九谷

文政6年(1823)のもの。道林寺は江戸中期の享保年間(1716~36)の創建になる真言宗の寺院。林田藩校敬業館の教授河野鉄兜は15世定海と親交があり、度々訪れている。また鉄兜の墓もある。

### ⑤ 大日寺境内歓喜天 勝原区朝日谷

5の④に前述、文政13年(1830)のもの。



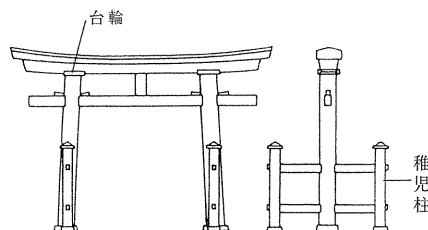
神明社(表2-27)

## 7 石工の名前のある石鳥居

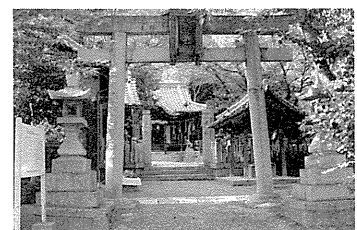
表1(次頁)のほか天保11年(1840)のものと思われる土山の八幡神社の石鳥居には、「石工ナタ善之助」の名がある。表中の嶋村(鳥村)・魚橋・龍山は現高砂市の石の宝殿周辺の地名。東長(おさ)・西長村は現加西市の地名である。

## 8 鳥居の形式と部分名称

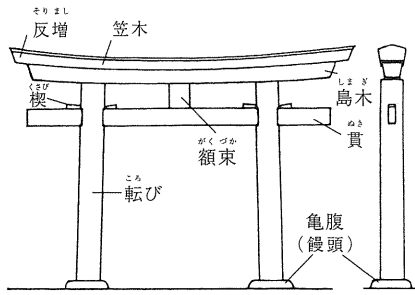
形式は色々分類されているが、代表例をあげた。



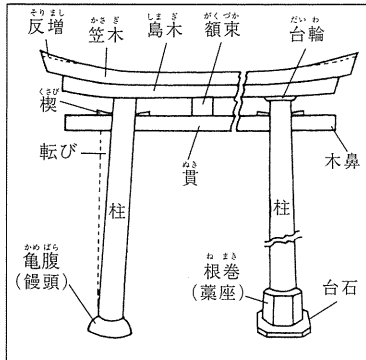
両部鳥居(権現鳥居・四脚鳥居)



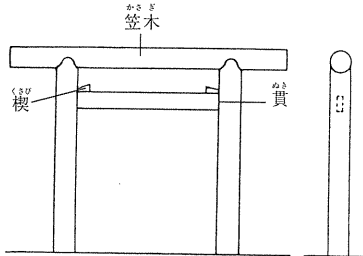
大歳神社(表2-37)



明神鳥居



鳥居の部分名称



神明鳥居 (伊勢内宮)

表1 石工の名前のある石鳥居

石工名	神社名	所在地	年号	西暦
大坂御影屋七兵衛	八幡神社	林田町	享保9	1724
嶋村 [ ]	天満神社	飾東町大釜	宝暦5	1755
島村西邨市右衛門	天満神社	山田町北山田	明和2	1765
魚橋住 忠蔵	甲八幡神社	豊富町豊富	安永元	1772
東長村 善四郎	正八幡神社	船津町宮脇	享和2	1802
魚橋 原文蔵	大歳神社	豊富町神谷	享和3	1803
東長村 常四良	大歳神社	山田町東多田	文化5	1808
齋崎 望月清兵衛	大歳神社	飾西	文化10	1813
材木町 居村茂十郎	天満神社	奥平野	文政7	1824
齋崎 泉屋伊左衛門	歓喜天	朝日谷	文政13	1830
毛野 善之助・弥蔵	大歳神社	上大野	天保14	1843
久右衛門	麻生八幡神社	奥山	弘化3	1846
魚橋村 久右衛門	若宮八幡神社	花田町上原田	安政3	1856
材木町 居村弥兵衛武次	大歳神社	保城	安政5	1858
西長村 仙左衛門	大森神社	豊富町豊富	安政5	1858
龍山 西村吉左衛門	大歳神社	豊富町御蔭	安政5	1858
灘石屋村 武兵衛	天満神社	広畑区才	安政6	1859
居村弥兵衛武次	大歳神社	野里	慶応3	1867

表2 江戸時代の年号のある石鳥居一覧表

	年号	西暦	神社名	所在地
1	慶安5	1652	射楯兵主神社	総社本町
2	万治3	1660	射楯兵主神社境内八幡宮	総社本町
3	寛文3	1663	乙天社	書写山
4	寛文3	1663	若天社	書写山
5	寛文4	1664	天満神社	北条
6	寛文13	1673	大歳神社	御国野町御着
7	延宝7	1679	八幡神社	山野井町
8	延宝8	1680	英賀神社	英賀宮町二丁目
9	延宝8	1680	大歳神社	八代宮前町
10	天和3	1683	天満神社	飾磨区恵美酒
11	元禄5	1692	白髭神社	別所町家具町
12	元禄14	1701	天満神社	花田町小川
13	元禄16	1703	歳徳神社	材木町
14	宝永2	1705	破磐神社	西脇
15	正徳6	1716	八幡神社	山野井町
16	享保2	1717	白国神社	白国五丁目
17	享保6	1721	愛宕大権現社	山野井町
18	享保9	1724	八幡神社	林田町八幡
19	享保9	1724	日吉神社	野里
20	元文元	1736	熊野神社	飾東町小原
21	元文2	1737	宇賀神社	乙阿保
22	宝暦5	1755	天満神社	飾東町大釜新
23	宝暦7	1757	加茂神社	別所町北宿
24	宝暦10	1760	天満神社	飾磨区須加
25	宝暦10	1760	竹宮神社	山田町南山田
26	宝暦11	1761	熊野神社	飾東町小原
27	宝暦12	1762	神明社	四郷町山脇
28	宝暦14	1764	大歳神社	山田町牧野
29	明和2	1765	天満神社	山田町北山田
30	安永元	1772	印鐸神社	四郷町山脇
31	安永元	1772	甲八幡神社御旅所	豊富町豊富
32	安永3	1774	八幡神社	飾東町大釜
33	安永3	1774	天満神社	山田町西山田
34	寛政10	1798	大歳神社東宮	御国野町深志野
35	寛政12	1800	大歳神社	豊富町豊富
36	享和2	1802	正八幡神社	船津町宮脇
37	享和2	1802	大歳神社	八代宮前町
38	享和3	1803	大歳神社	豊富町神谷
39	文化5	1808	大歳神社	山田町東多田
40	文化5	1808	大歳神社	豊富町豊富
41	文化10	1813	大年神社	飾西
42	文化11	1814	大歳神社西宮	御国野町深志野
43	文化13	1816	日吉神社	書写
44	文政6	1823	道林寺	林田町六九谷
45	文政6	1823	三森神社	豊富町御蔭
46	文政7	1824	天満神社	奥平野
47	文政13	1830	歓喜天	勝原区朝日谷
48	天保7	1836	日吉神社	書写
49	天保14	1843	大歳神社	上大野四丁目
50	弘化3	1846	麻生八幡神社	奥山
51	嘉永3	1850	住吉神社	的形町磯
52	安政3	1856	若宮神社	花田町上原田
53	安政3	1856	大年神社	保城
54	安政5	1858	大年神社	豊富町豊富
55	安政5	1858	大森神社	豊富町御蔭
56	安政6	1859	大歳神社	砥堀
57	安政6	1859	天満神社	広畑区才
58	文久3	1863	床浦稻荷社	町坪
59	元治元	1864	九所御霊天神社	大善町
60	元治元	1864	春川神社	砥堀
61	慶応3	1867	大歳神社	野里
62	慶応3	1867	蒲田神社	広畑区蒲田